

発達段階と行動決定の変化

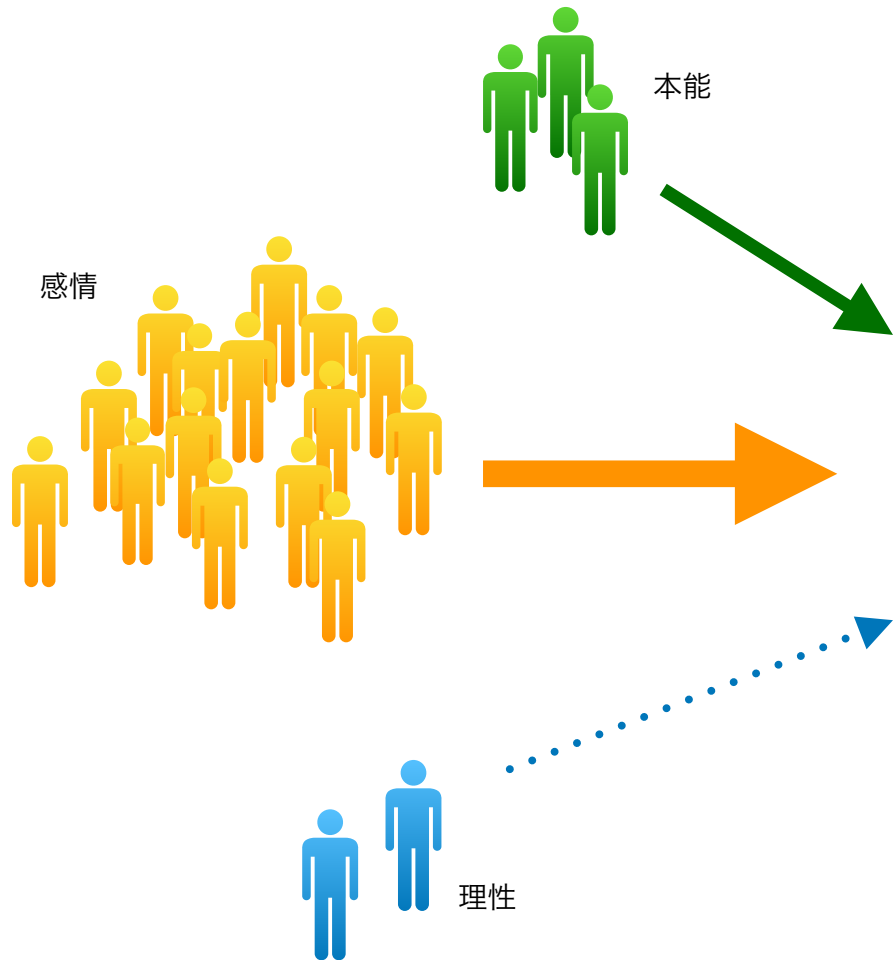
素質と成長のタイミングは外から見てもわからない

- 前頭前野は、感情の制御、行動の切り替え、ワーキングメモリー、計画性、抽象化、推論などの高次機能全般を司る。
 - 発達のタイミングは人それぞれで、最終到達点は示さない。
 - 自走できるのは理性だけではなく、感情や嗜好も味方につけた特殊な例。
-

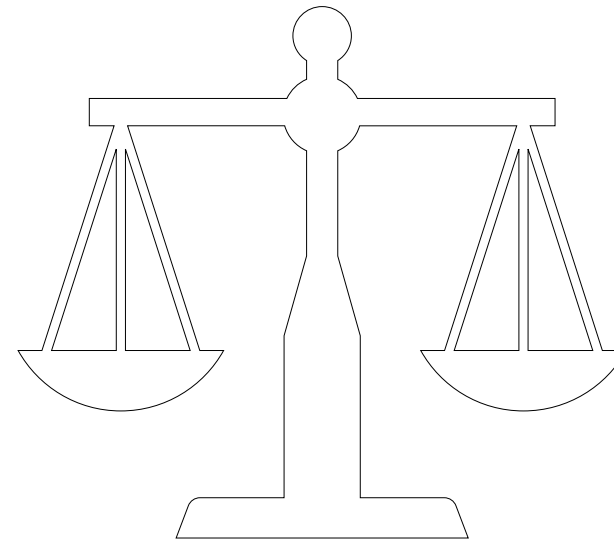
最終到達点は20代半ば

- 10歳頃からホルモンの影響で感情を司る大脳辺縁系の成熟が促される。
- 思春期＝過渡期で、不安定さは人類共通。
- 前頭前野の髓鞘化は10歳過ぎから加速して、完成は20代。大人レベルの自我は15歳以降。
- 感情と理性が互角になるのが15～18歳頃、理性が優位になるのは20代。
- 感情に対する理性の説得力は、経験によって増す。
- 勝ちや成功の経験、達成感は、苦しい時のあと一步の説得に役立つ。
- 負けや失敗の経験、後悔は、易きに流れそうな時の説得に役立つ。

10歳頃まで

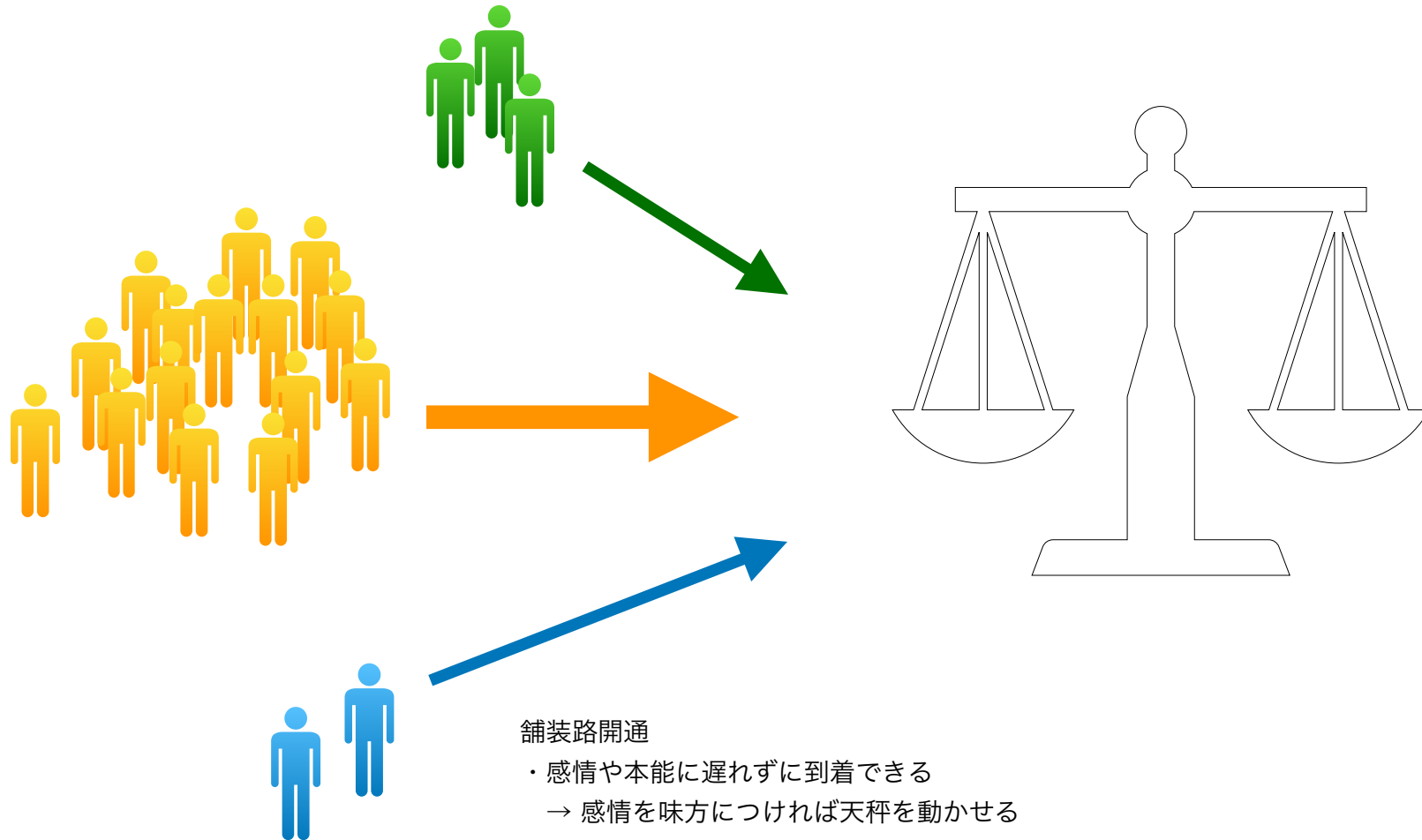


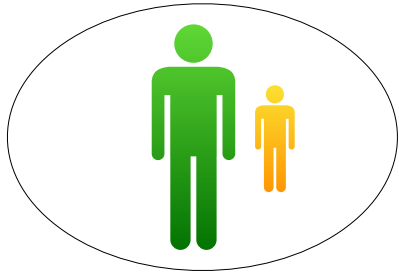
行動の天秤



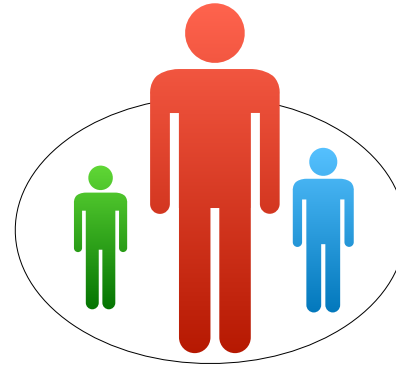
- ・動かすには5人必要
- ・本能と感情からの道は舗装済み
- ・理性からの道は未舗装

10~12歳頃

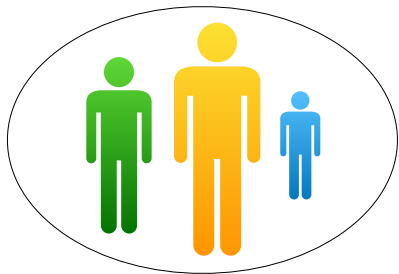




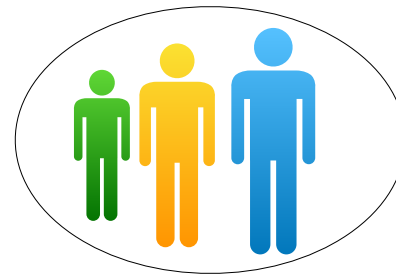
0~3歳
本能的欲求が強い。
感情の芽生え。



10~15歳
理性も成長するが、
感情は爆発的に大きくなる。



3~10歳
感情が大きくなる。
理性の芽生え。



15~25歳
感情は徐々に落ち着き、
理性が互角以上になる。